

第6次川西市総合計画 基本構想(案)

表紙(作成中)

目次

はじめに

はじめに	P1
かわにしてこんなところ	P2
かわにしの暮らして、心地よい。	P4

基本構想

自治を育てる。川西市が「ジブンゴト」になる。	P6
めざす都市像	P8
私たちが大切にしたい思いー4つの基本姿勢ー	P10
総合計画体系図	P12
まちのミライを支える5つの柱ー分野別目標ー	P14

基本計画

都市像の実現に向けた歩みを示す3つの指標	P18
分野別目標 01	P19
分野別目標 02	P24
分野別目標 03	P29
分野別目標 04	P34
分野別目標 05	P39
資料	P44



みんなが笑顔で暮らせるために、何を大切に思い、川西がどんなまちをめざすのか。

それをまとめたものが「総合計画」です。

ここには、様々な分野に関わる「まちづくりの基本方針」が詰まっています。

まちづくりを進めるにあたり、私たちは「川西がめざす都市像」と

「大切にしたい基本姿勢」を皆さんと共有していきます。

市民の皆さんとつくった川西市総合計画を掲げ、

ミライのため共に歩んでいきたい。そんな思いを込めた一冊です。

かわにしてってこんなところ

利便性の良さと豊かな自然に恵まれた環境を活かし、住宅都市として発展してきた川西市。

黒川地区の里山や清流猪名川など、自然を身近に感じられる一方で、

大阪・京都・神戸へのアクセスも良いのが特徴です。

ほかにも、早生桃やいちじくといった特産物や、

清和源氏発祥の地に関する史跡など、

かわにしは多くの魅力にあふれています。



加茂遺跡

市内で最も代表的な遺跡。明治44年にここで「栄根銅鐸」が発見され、注目を浴びた。



多田神社

天禄元年（970年）に創建された多田院には、じまる神社で、境内が国指定史跡となっている。本殿・拝殿・随神門は江戸中期に再建されたもので、国の重要文化財。ほかにも、清和源氏にまつわる歴史的価値のある文化財が数多く残っている。



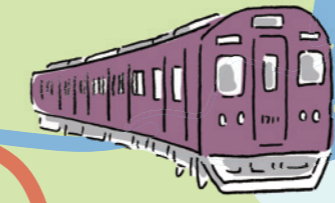
満願寺

奈良時代に建立されたと伝わる。源満仲公が多田の地に館を構えて以来、源氏ゆかりの「祈願所」として栄えた。山門には、明治時代の神仏分離の際に多田院から移設された金剛力士像が2体立っている。



知明湖（ちみょうこ）

知明湖は一庫（ひとくら）ダムによって生まれたダム湖で、日本の「ダム湖百選」に選出されている。



黒川の里山

約8年の周期でクヌギの木を伐採し、人が常に手を入れながら、里山をつくりあげている。年をずらしながら部分ごとに伐採を行うため、里山はモザイク状の景観に。こういった自然環境の保全と資源利用のサイクルが今なお続いていることなどから、「日本一の里山」といわれている。

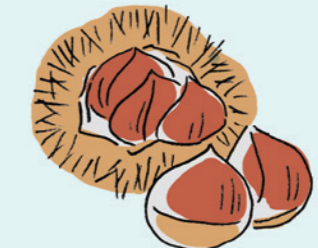


炭：菊炭（きくずみ）

黒川地区では、茶会で使用される最高級品の炭「一庫炭」を生産。クヌギの木を焼いてできた炭は、切り口が菊の花のように美しいことから「菊炭」とも呼ばれている。

三ツ矢サイダー® 発祥の地

多田村平野に湧き出していた天然鉱泉。明治時代に「三ツ矢平野水」と名付けられたその水は、全国でその名を知られ、現在の「三ツ矢サイダー®」となった。



北摂栗：銀寄（ぎんよせ）

大阪府、京都府と隣接する北摂地区では、1000年以上前から栗の栽培が行われてきた。当時の朝廷や幕府の将軍も、この地区の栗を口にしていたといわれている。



いちじく：柘井（ますい）ドーフィン

「朝採り・完熟」のいちじくとして有名で、新鮮さがセールスポイント。愛称は「朝採りの恵み」。主に市南部で栽培。



桃：早生桃（わせもも）

県下でも有数の桃の産地で、特に他よりも一足早く出荷される「早生桃」は旬の味を求める人に人気がある。主に市南部で栽培。

かわにしの暮らしって、心地よい。

まちのいいところが普段の生活で感じられる“かわにしの暮らし”。
そんな暮らしが続いていくことで、まちへの愛着が生まれ、
ずっと住んでいたいまちになります。
何より、そこに暮らす皆さんが川西ならではの
“心地よさ”を実感し、共有できていることが大切です。



良質な住環境がある暮らし



ファミリー層が住んでみたいと思える暮らし



また帰ってきたいと思える暮らし



まちのにぎわいを感じる暮らし



ふるさとの歴史にふれる暮らし



豊かな自然が身近な暮らし



市街地でも元気に遊べる暮らし



地域をみんなで大切にする暮らし



大都市への利便性が高い暮らし

自治を育てる。 川西市が「ジブンゴト」になる。

市では、これまで、人口減少、少子高齢化社会に対応していくために、市民をはじめ、自治会やコミュニティ、ボランティア、NPOなどと連携してそれぞれの持つ能力を最大限に発揮しながら取り組む、参画と協働のまちづくりを進めてきました。



一方で、社会の変化が著しく、市民それぞれの価値観も多様化する中で、これまでまちづくりの中心を担ってきた自治会やコミュニティの担い手不足が課題となっています。

そのような中、あらためて市民一人ひとりが川西市や地域のことを「ジブンゴト」としてとらえ、主権者として政策過程に参加すること、まちづくりのプレーヤーとして参画することが大切です。



様々な市民の関わりによって、川西の“心地よさ”が磨かれ、結果として「川西に住んでみたい」「川西に住み続けたい」という思いへつながると考えます。

そのため、市は、市民などのプレーヤーが参画しやすい環境を整えていく必要があります。

心地よさ 息づくまち 川西

～ジブンイロ叶う未来へ～

めざす
都市像

日々の暮らしの中で、ふとしたきっかけで心が弾むとき、人は笑顔になります。
まちは、そこに暮らす人の生活で形づくられるもの。
あなた自身が笑顔で暮らせることも、川西というまちを形づくる上で大切なものです。
一人ひとりが思い描く幸せの形は、きっと違います。
ただ、「幸せに暮らしたい」という思いは、誰もが同じように持っているのではないでしょうか。
子どものにぎやかな声が飛び交い、みんなの笑顔が満ちあふれ、
いつまでも安心して暮らせる日々。
そんな「何気ない日常」の積み重ねが心地よさを育み、それぞれの幸せを形づくりします。



子どもがのびのび育つまちにしていきたい

社会変化に対応できる、持続可能な地域に



ケガした時に、通りがかった人に助けられて嬉しかった。私もそんな大人になりたいな

まず何より心と体両方の健康が一番大事



自然が豊かな川西に帰ってくるとホッとするな



地域のつながりで、暮らしやすいまちにしたい

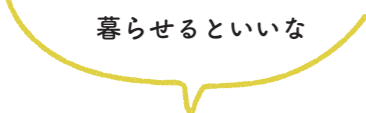


若い人が愛着を持ち、また戻ってきたいと思えるまちにしたいね



川西は、そんな「ジブンイロの幸せ」を大切にしたい。
まちの明日に必要なものは、この地に根ざした「愛着」です。
誰もが主役となり、
住み慣れた場所でジブンらしく、いきいきと輝ける。
そんなまちの未来を、みんなでつくりましょう。

幅広い世代の交流が盛んで、それぞれが元気に暮らせるといいな



いくつになっても、新しいことにチャレンジできるまちって素敵だよ



子どもたちの遊べる場所が少ない。今あるものをもっと有効活用していこう



この総合計画策定に向けておこなった、市民参画の取り組みでた意見です。

私たちが大切にしたい思い

－ 4つの基本姿勢－

都市像の実現に向けて、私たちが何を大切にしようとしているか。

その思いを4つ示しています。

これらは、年齢や立場に関係なく、川西に関わるあらゆる人と共有しようとするものです。

まちは、一人ひとりの暮らしで形づくられています。

私たちは、年齢や立場はそれぞれ違いますが、縁あって同じまちに暮らしています。

川西で感じられる心地よさを次世代に引き継げるよう、

一緒に考え、取り組んでいきましょう。



I まず、「子どもの幸せ」から始めます。

子どもたちの笑顔は、世代を超えたにぎわいや活力を地域にもたらします。

私たちは、笑顔あふれる子どもの成長を通じて、
あらゆる市民が幸せを感じられるまちをめざします。



II 人に寄り添い、 お互いの個性を認め合います。

誰もが、地域の一員として誰かを支えたり、フォローできる役割を少しずつ持っています。

私たちは、各々のペースでまちに関わりながら互いを尊重し、
多様な個性を認め合えるまちをめざします。

III 未来に責任を持ち、 持続可能な仕組みをつくります。

このまちを、未来の子どもたちにしっかりと引き継ぐ責任が私たちにはあります。

私たちは、人口減少社会や自然災害等を見据え、既存のまちのあり方を柔軟に見直し、
持続可能なまちをめざします。

IV 日々の暮らしで感じられる幸せを 大切にします。

一人ひとりに安らげる居場所や充実した時間があることで、
このまちで過ごす時間がかけがえのない思い出になっていきます。
私たちは、「やってみたい」ことに自らチャレンジでき、
それを応援し合えるあたたかいまちをめざします。



総合計画体系図

基本構想
めざす都市像



4つの基本姿勢

- I まず、「子どもの幸せ」から始めます。
- II 人に寄り添い、お互いの個性を認め合います。
- III 未来に責任を持ち、持続可能な仕組みをつくります。
- IV 日々の暮らしで感じられる幸せを大切にします。

自治を育てる。川西市が「ジブンゴト」になる。

「4つの基本姿勢」を
どんな時も意識して
取り組んでイコー

基本構想		基本計画					
5つの柱(分野別目標)	No.	施策	No.	小施策			
01 人が豊かに育つ川西の実現	1	子ども・子育て	1	妊娠・出産・乳幼児支援	戦略		
			2	子育て環境整備	戦略		
			3	教育保育	戦略		
02 にぎわいが生まれる川西の実現	2	人権・ジェンダー平等・多文化共生	4	若者支援	戦略		
			5	人権・ジェンダー平等・多文化共生			
03 安全安心を備えた川西の実現	3	生涯学習	6	社会教育	戦略		
			7	芸術文化・スポーツ			
04 快適な環境で暮らせる川西の実現	4	歴史・観光	8	歴史・観光	戦略		
			5	地域産業	9	商工振興	戦略
					10	農業	戦略
05 変革の歩みを止めない川西の実現	6	防災・生活安全	11	雇用就労・働く場の創出	戦略		
			7	健康・医療体制	12	地域防災	戦略
					13	消防・救急	戦略
06 都市基盤	8	福祉	14	消費生活・防犯	戦略		
			9	都市基盤	15	健康増進	戦略
					16	地域医療	戦略
07 環境	10	環境	17	地域福祉	戦略		
			18	障害福祉	戦略		
			19	高齢者福祉	戦略		
08 参画・協働	11	行政経営	20	都市整備	戦略		
			12	行政経営	21	住宅	戦略
					22	道路	戦略
09 職員育成	12	ICT推進	23	公共交通	戦略		
			10	環境	24	公園	戦略
					25	上下水道	戦略
10 広報広聴・魅力発信	11	参画・協働	26	生活衛生	戦略		
			12	行政経営	27	環境保全	戦略
					28	参画・協働	戦略
11 参画・協働	12	行政経営	29	行政経営	戦略		
			10	環境	30	職員育成	戦略
					31	ICT推進	戦略
12 広報広聴・魅力発信	11	参画・協働	32	広報広聴・魅力発信	戦略		
			12	行政経営	31	ICT推進	戦略
					32	広報広聴・魅力発信	戦略

※「第3次川西市総合戦略」に位置付ける小施策については「戦略」と表記しています。

まちのミライを支える5つの柱

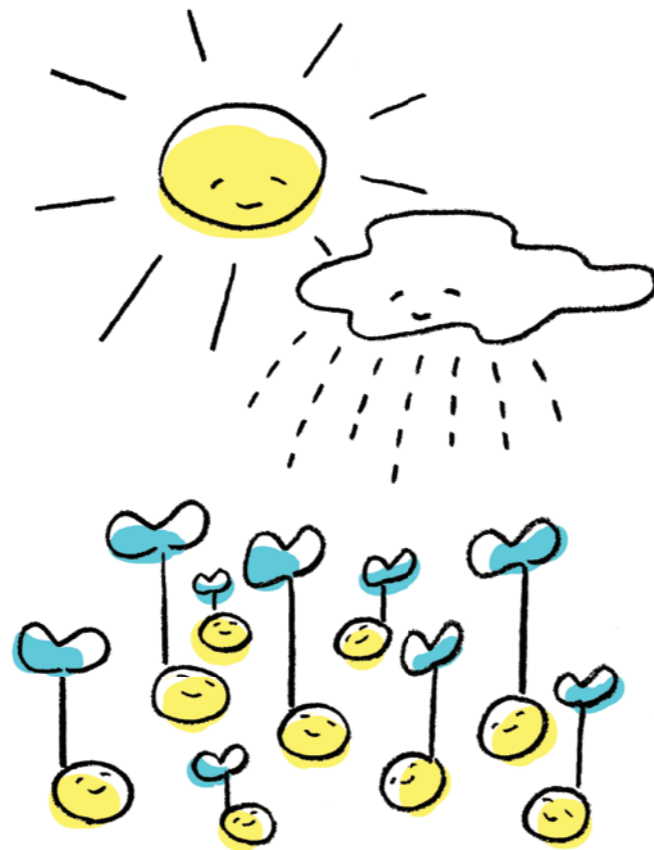
一分野別目標

都市像の実現に向けた取組みの方向性をイメージしやすいよう、川西の強みを活かす5つの柱(分野別目標)を設定し、新たな川西をつくる施策を推進します。

01

人が豊かに育つ川西の実現

子どもたちが幸せでいることや、そこから広がる笑顔は、世代を超えたにぎわいを生み、多くの人を幸せにする力があります。そこで、まず子どもに笑顔(幸せ)になってもらいたいという思いから、本市の施策は子ども・教育から始めます。また、人と交流する機会が減っている中、これまで以上に「人づくり」や「つながりづくり」が求められることから、個人の成長と地域社会の発展、学びと活動の好循環を生み出すことで、誰もが豊かに育つことのできる川西をめざします。



02

にぎわいが生まれる川西の実現

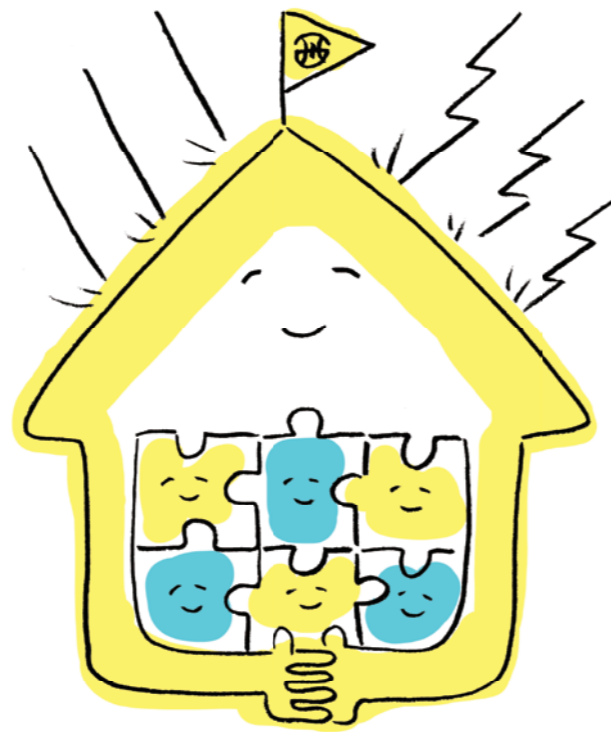
身近な地域で働き、豊かな暮らしが実現できるよう、商業・工業・農業の持続性の向上と活性化を図るため、「働きたい・活動したい・住み続けたい」と思える場づくりを進め、起業支援や、民間企業等との連携に取り組みます。また、中心市街地の回遊性を高め、地域資源を活かしたイメージの向上や観光交流なども通じて、市民にとっては「住み続けたい、帰ってきたい」、市外のかたには「訪れたい」と思えるような、にぎわいが生まれる川西をめざします。



03

安全安心を備えた川西の実現

子どもから高齢者まで、障がいがある人もない人も、居場所があること、自分の力を発揮できる場所があることは幸せを実感するうえで重要なことです。そのため、市民が将来にわたって住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らせるように取り組みます。併せて、多発する大規模災害、巧妙化する犯罪、社会情勢の変化などに的確に対応し、安全で安心して暮らせる川西をめざします。



04

快適な環境で暮らせる川西の実現

本市は豊かな自然環境を有し、高度経済成長期に住宅開発によって成長してきたまちで、緑豊かな環境と利便性を併せ持っていることが大きな特徴です。このようなまちの特徴を大切にするため、自然や文化、生物多様性の理解を深め、それらを守り、育む、ふるさとに愛着が持てる取り組みを進めます。併せて、人口減少や少子・高齢化の進展など、環境は大きく変化していくことから、既存の都市基盤を有効活用しながら、民間活力などにより都市に新たな魅力や価値を加え、持続可能で生活の質の高い、快適な環境で暮らせる川西をめざします。

05

変革の歩みを止めない川西の実現

複雑・多様化する行政ニーズに的確に対応するために、限られた経営資源を効率よく有効に活用した施策の実施、事務事業の見直し、ICT（情報通信技術）化を進めます。また、市民が必要としている情報や、市が知ってほしい情報を効果的に伝える取り組み等を通じて、市民や市民公益活動団体、事業者などができることを持ち寄り、力を発揮できる仕組みをつくります。併せて、変化に柔軟に対応できる組織体制の構築や、職員の能力開発といった人材育成に努めるなど、変革の歩みを止めない川西をめざします。

